

# 「要件定義・Fit & Gap」の 作業要領

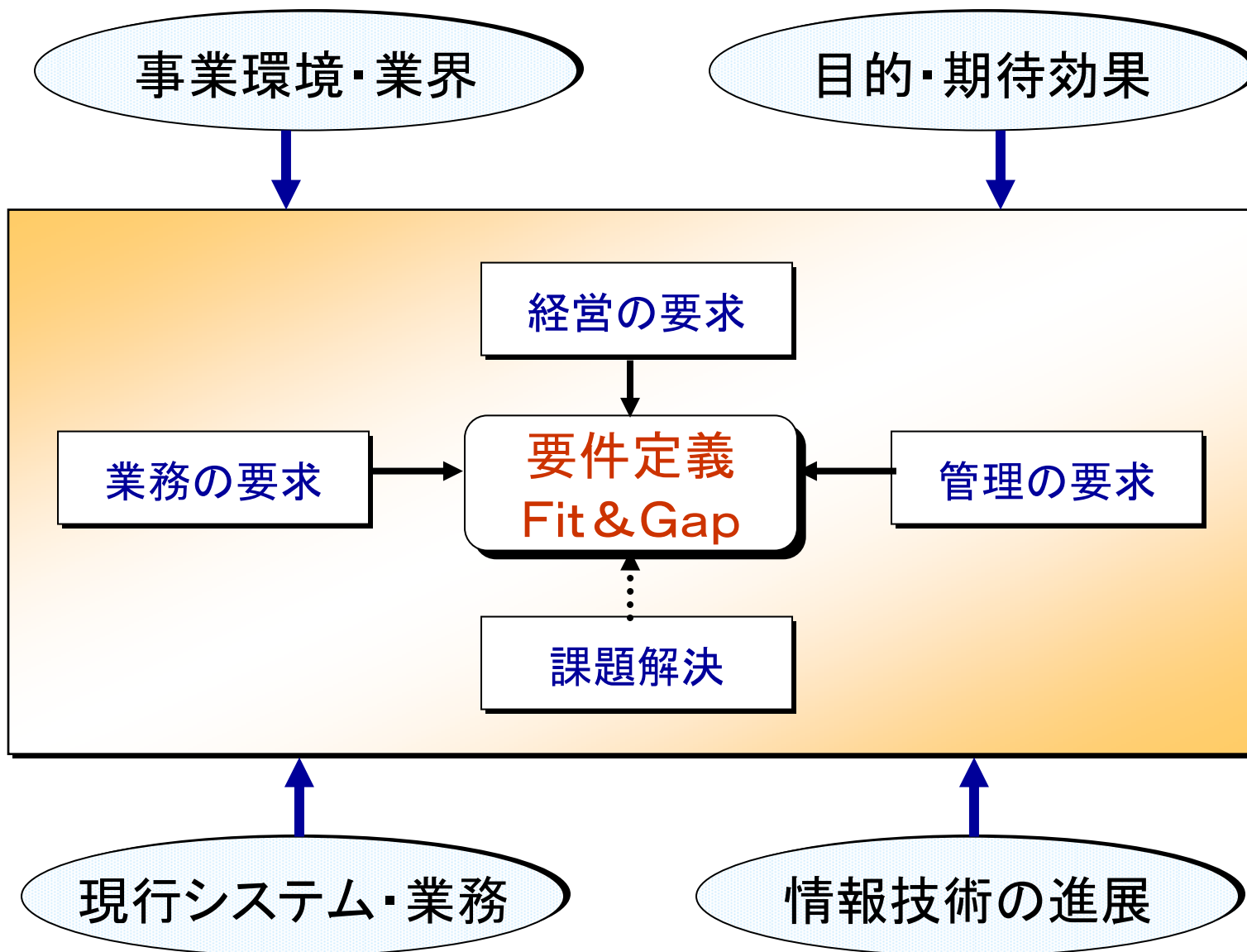
— 成果を上げるための着眼点 —

1. 作業を取り巻く条件
2. パッケージ導入と作業
3. 検討する視点
4. カテゴリーによる検討作業
5. 検討対象の基準
6. ベンダと作業
7. 「要件定義・Fit & Gap」作業の限界

「要件定義・Fit & Gap」作業はパッケージ導入のカナメになる作業です。そのため、この作業をどのような点に注意して取り掛かるかが大事になります。ベンダ提示の作業のやり方・進め方に準じながら、自社の取り組み方・姿勢に触れています。

# 1. 作業を取り巻く条件

- 作業を取り巻く条件を考慮して、最初の作業に臨むことが望ましいです。



## 2. パッケージ導入と作業

① 情報システムそのものが、経営のツールになってきている。

→ パッケージに価値があるのではなく、パッケージのシステム機能を使用するルール・仕組み・運用に価値がある。

② パッケージ導入の期間が短くなっている。

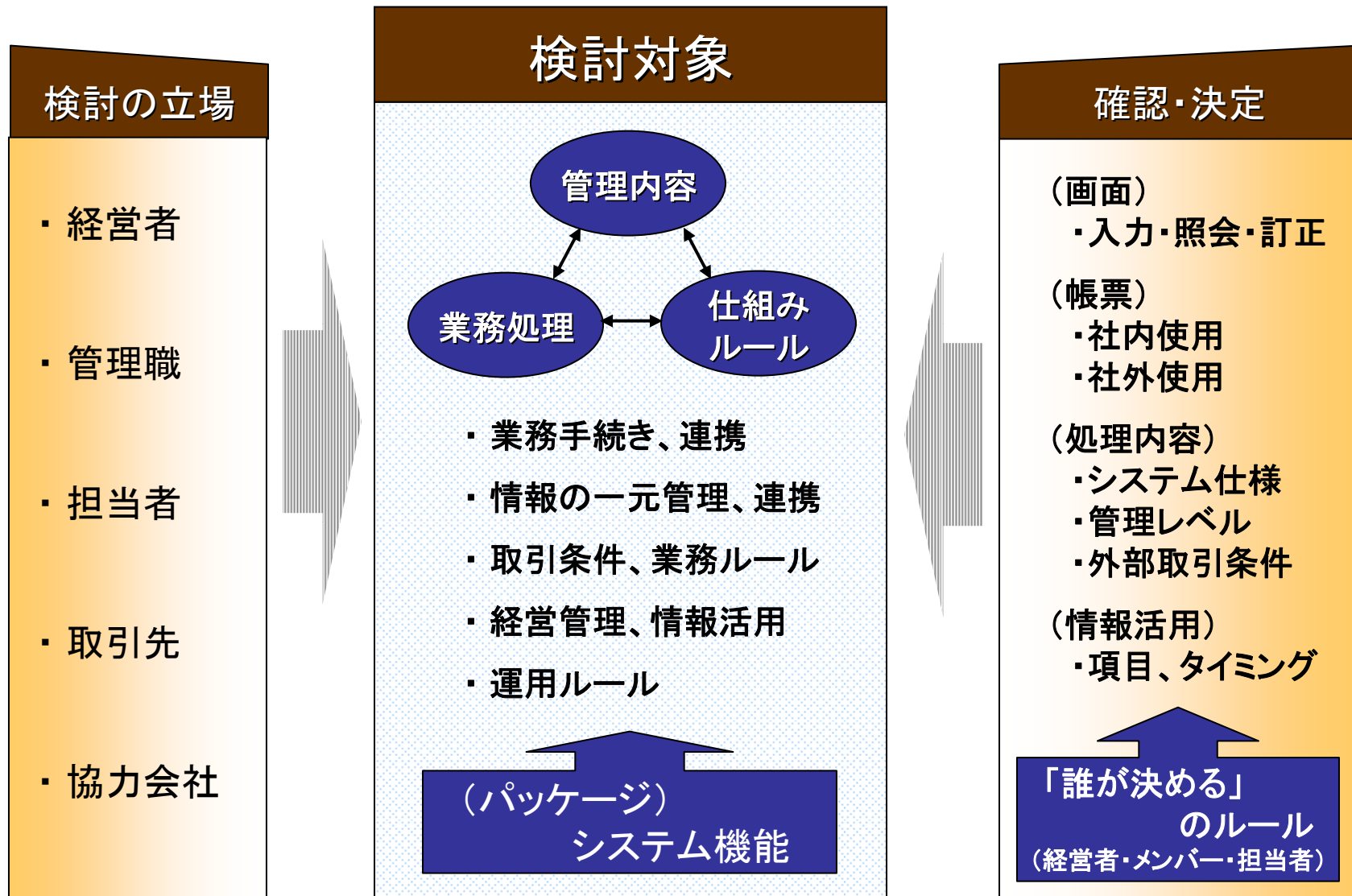
→ 競争への対応・効果の実現から、パッケージ導入の有効性が早期に求められている。

③ プロジェクト失敗の多くが、要求定義・Fit & Gapの作業の仕方とその成果物に起因している。

→ 経営・管理・業務など多面的要求が増しているため、最終成果物であるシステム機能の複雑性が避けられない。

# 3. 検討する視点

- 「検討の立場」から、パッケージ導入の「検討対象」の検討を行うことが必要です。また、「確認・検証」を誰が決めるかを明らかにすることも大事なことです。



## 4. カテゴリーによる検討作業

- 目的達成のための検討作業において、作業の効率性と確実性を高めるために検討対象をカテゴリー化して行うのがベストです。

### カテゴリー化の目的

- ・ 自社の検討すべき対象を整理し、検討しやすくする。
- ・ システム機能に落す際、ダブリ・ムダを省くことができる。

### カテゴリー化の対象例

- ① 経営管理
  - ・ 事業、扱い商品/製品/部品、サービス、管理手法
  - ・ 直接/間接部門、営業/生産/加工/購買、原価管理
- ② 業務プロセス
  - ・ 受注、出荷、売上、請求、売掛金
  - ・ 先行手配、発注、入荷、仕入、支払、買掛金
  - ・ 在庫管理、店頭販売、メニュー管理
  - ・ 生産管理、生産指示、原価管理、外注管理
- ③ マネジメント
  - ・ 営業活動、利益管理、予算管理、原価管理
- ④ 経営資源
  - ・ 人(コミュニケーション・情報流通)
  - ・ もの(扱い商品・設備・原材料・・・)
  - ・ 金(キャッシュフロー、利益、信用管理・・・)
  - ・ 情報(連携・流通・コミュニケーション・意思決定)

# 5. 検討対象の基準

- 検討対象のカテゴリライズに対して、検討是非の判断を行うことも必要になります。  
「実現可能性」「重要性・緊急性」の観点から行い、その判断実施の責任を明確にします。

## 検討是非の基準

### 1. 実現可能性

制約条件などの面から、実現の具体性を見極める。

- ① 予算                    — 見積内か否か
- ② 範囲                   — 目的達成の範囲内か否か
- ③ パッケージ           — 対応が可能か否か

### 2. 重要性・緊急性

目的・期待効果から検討作業の必要性を判断する。

- ① 重要性  
検討対象のカテゴリライズしたテーマに対して、  
目的達成に対しての不具合・障害の程度
- ② 緊急性  
検討対象のカテゴリライズしたテーマに対して、  
目的達成に対しての問題解決の速度の程度  
(放置した場合の悪い影響の程度)

### 3. 判断の実施

メンバー、必要に応じて経営者が検討是非の判断を行う。

## 6. ベンダと作業

- パートナーとしてのベンダとの共同が全て作業の基本にあります。自社とベンダとの作業に関する歩調・信頼・実行が最終成果物に影響を与えます。

### 1. ベンダへの過信はしない。

- 自社の業務処理、管理内容などの全てに精通していない。現在の事業に対して、自社の歴史・経緯・背景などを体得していない。
- ベンダを上手に活用する姿勢と判断が大事になる。

### 2. ベンダとの協力を重視する。

- ベンダの要求するドキュメント・資料・データなどを速やかに提出する。また、必要に応じて自社でドキュメントを作成する。
- ベンダへの「他力本願」でなく、あくまで自社でパッケージ導入を実現させる姿勢と行為が必要である。

### 3. ベンダの弱みは改善させる。

- ベンダが提示したドキュメント・資料の拙さ、作業進捗の遅れ、約束不履行などに気づいたとき、速やかにその理由を示しベンダに改善要求を行う。
- 自社に対するベンダからの要望なり改善点を聞く懐の深さも必要である。

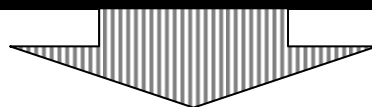


# 7. 「要件定義・Fit & Gap」作業の限界

- ウォーターフォール型の開発手法での「要件定義・FIT&GAP」の作業工程において、要件定義・FIT&GAPの成果物に完全性を求めることには限界があります。その背景と理由を理解して、ベンダとの契約なり開発工程のあり方を決めることが大事です。

## 背景と理由

- ・ 情報システムに期待する要件が、業務効率・経営管理の充実・競争の差別化にあり**検討対象が多岐**にわたっている。
- ・ 要件の検討において、**新たなアイデアと発想・ルール改善・解決策の模索が必要不可欠**になっている。
- ・ **要素別ドキュメントと静的な画面を基にした検討作業**では、生きた業務処理と経営管理からの全体観と確信がつかみにくい。
- ・ ベンダに上記の事項に関して、大きな期待はできない。



## 対応方法

- ・ ユーザ要件の改善・変更・追加の**発生を認める開発手法を一部でも取り入れるベンダを選択**する。  
例 → ①プロトタイプ型、アジャイル型との混在  
②「設計・テスト工程」での要件の最終確定方式